

令和7年度仁淀川清流保全推進協議会

第2回美しい景観を保全するワーキング 要旨

日時：令和7年12月25日（木）10:00～12:00

場所：高知県立高知青少年の家 1階 会議室（吾川郡いの町天王北1丁目14番地）

出席者：6名

所属等：株式会社相愛、水生生物研究家、国土交通省高知河川国道事務所仁淀川出張所、ニッポン高度紙工業株式会社、事務局（高知県自然共生課）

1 議題

- （1）今年度の進捗状況と来年度の取組について
- （2）仁淀ブループロジェクトについて（報告・協議）
- （3）その他

2 資料

- 資料1 第2次仁淀川清流保全計画（改訂3版）取組項目 線表（抜粋）
- 資料2 スケジュール一覧（案）
- 資料3 仁淀ブループロジェクトについて（報告・協議）
- 参考資料 仁淀川清流保全計画の取組内容の進捗状況（報告）

3 主な協議内容

- ・仁淀川一斉清掃について
- ・仁淀ブループロジェクトの具体的取組の検討について

4 協議結果（今後の取組の方向性等）

（1）清掃活動に関して

- ・清掃活動を行う団体は複数あり、それらの団体の実績も含めてKPIの評価ができるよう情報収集方法等を検討する。
- ・流域の市町村と連携し、ボランティアが（清掃活動で）回収したゴミを捨てるための専用ゴミ箱設置を検討する。

（2）仁淀ブループロジェクトの具体的取組の検討について

- ・プロジェクトの基盤となる「仁淀ブルーサポーター憲章」の制定をまず検討する。
- ・「シンボルマーク」は憲章の内容に沿って、大学生までを対象に公募を実施する方向性の提案をしていく。
- ・「協力金制度」および「（仮称）仁淀川マナーアップブース」に関しては、流域市町村からの情報収集を行い、順次検討していく。
- ・「仁淀ブルーサポーター制度」については、仁淀川を大切に思う気持ちがある人がサポーターとなれるようにし、数値化しやすい仕組みを目指して制度設計を検討する。
- ・「看板」については、デザインの統一や看板で伝えたいメッセージの検討を地域に適した形で進めていく。
- ・地域資源の保全と活用については両者の合意形成が必要で、丁寧な検討をしていく必要がある。

【議題概要】

事務局	【今年度の進捗状況と来年度の取組について】 令和7年度から令和11年度までの仁淀川一斉清掃の目標は延べ参加者2,000名で、単年あたり400名を見込んでいる。今年度は「河川一斉清掃」に496名、「第15回仁淀川一斉清掃」に340名が参加し、合計836名の参加があった。 「仁淀川スタイル」のFacebookは7～9月に13回投稿し、来年度も発信を継続予定。 水質マップ・河川ごみマップは年1回の公表を目標に調査協力を依頼中。 今年度もとさ自由学校でごみ勉強会を実施した。 今後は、仁淀ブルーサポーター制度関連の活動について本ワーキンググループで検討予定。また、来年度は新たに「サステナブルツーリズム推進」についても取り組みを進めたいと思う。 →（意見） X（旧Twitter）やInstagramなどの活用検討はあるか。Facebookはアカウント登録者でないと閲覧できないため不便。 →（事務局） Facebookの発信力は今一つである。SNSのアカウントを増やしても効果は限定的と考えているため、異なるジャンルでの発信方法を検討中。 →（座長） 天候等の理由で一斉清掃が実施できなかった場合、目標参加者数2,000人に届かない可能性がある。2,000人は5年間すべて実施できた場合のKPIと認識している。注釈等で「全て実施できた場合に」という共通認識を持つておくが良いと思う。 →（事務局） 現在設定しているKPIは年間400名参加者を目標にしており、5年で2,000名を想定している。裏目標として、仁淀川一斉清掃単体で年間400名参加を目指している。 →（座長） 参加者増を目指すのであれば、流域人口が減少していることを踏まえると流域外からの参加者も必要である。参加者増には実績に基づく詳細な分析が必要。イベントの周知方法や実施場所の距離など課題を検証しないと増加は見込めないのではないだろうか。 →（事務局） 他に清掃活動を行う団体（仁淀川の“緑と清流”を再生する会の仁淀川クリーン作戦など）があり、その実績も含めて評価したい。その場合、KPIの見直しが必要になる可能性がある。 →（座長） 一方の団体の成果だけが評価され、もう一方の団体の成果が反映されない事態を避けるため、情報収集方法のルール設定が必要。 →（事務局） 既に河川ごみマップ関連で関係団体から情報収集している。この調査に関連付け
-----	--

事務局	て情報収集方法を検討したいと思う。 →（意見） サーファーは継続的にゴミ拾いをしているが、拾ったゴミを捨てる場所がないのが課題。ゴミ捨て場があれば清掃活動を行う人は増えると思う。実際に、拾ったゴミを自分で持ち帰る人も多い。サーファーからゴミ拾いの輪を広げていくことも効果的であると考えている。 →（事務局） ゴミ捨て場の設置については市町村とも協議したいと思う。ただ、単にゴミ箱を設置すると家庭ゴミの持ち込みなどの問題も考えられるため、そのことも踏まえて検討したい。 →（座長） 土佐市にある南風（まぜ）の指定管理者と土佐市を通じて協定を結び、ゴミ箱の設置を検討してはどうか。（ボランティアゴミのみ受け付けるなど条件を設定） →（事務局） 流域市町村との協議とは別に個別でも土佐市クリーンセンターと協議を行いたいと思う。 【仁淀ブループロジェクトについて（報告・協議）】 令和7年11月7日に開催された第1回仁淀ブループロジェクト会議では、プロジェクト構想に賛同する関係者が集まり、計画（素案）について意見交換を行い、取組の方向性や仁淀ブループロジェクトチームの発足が承認された。 今後は発起人である仁淀川清流保全推進協議会、仁淀ブルー観光協議会、高知県を中心に具体的な取組を検討し、第2回チーム会議へ提案していく予定。 主な活動項目案は、 項目1：仁淀ブルーサポーターを増やす仕組みの検討・運用 項目2：オーバーツーリズム回避とサステナブルツーリズムの推進 項目3：看板デザインの統一化・集約化の検討・運用 である。 また、個別の具体的な取組（案）として、憲章やシンボルマークの導入、共通協力金制度、マナーアップブース設置などを挙げている。項目2に関連する、地域のツール作成やコンテンツ検討については今回のワーキンググループでは扱わず、別途協議していく予定。ワーキングメンバーには、各項目について忌憚のないご意見をいただきたい。 →（座長） 今回のワーキングでは扱わないとされているが、意見を述べたい。 項目2-2に「地域資源の活用と保全・維持管理を両立したコンテンツの検討」とあるが、仁淀ブループロジェクトチームでまず重視すべきは地域資源の保全である。消費型観光からの転換が求められている中で、保全を無視することはできない。 一方で観光分野では地域資源の活用も重要であり、両者の合意形成が必要。そのため、サステナビリティに関する勉強会も必要に応じて開催する必要があると考える。また、地域住民の意見として、ルールを守らない観光客が一定数存在し、そうした観光客への懸念があること、ルールを守れない観光客が数人いるなら、いっそ観光客自体来てほしくないという地域の声もある。以上から、項目2については、
-----	--

	地域資源の持続可能性や地域住民の思いを尊重しつつ、ていねいに内容を検討していく必要があると考える。 ○項目 1 関連：「仁淀ブルーサポーター憲章」の検討、導入について →（意見） 地域住民が神聖な場所と思っているところでの騒音や迷惑行為がなくなるように、「地域の文化を知り、暮らしに配慮します」という一文を憲章へ入れてほしい。 また、希少植物を無断で採取する人をなくしていくため、「流域の希少植物を守っていきます」という一文も憲章へ入れてほしい。 ○項目 1 関連：「シンボルマーク」の検討、導入について →（座長） 事務局でシンボルマーク作成の案はあるか。 →（事務局） 中高生を対象とした公募などはいかがか。学校も巻き込んだ取り組みとすることで仁淀ブルーサポーター制度の周知にもつながっていく。 →（座長） 例えば、仁淀川に住む人や仁淀川を愛する大学生までを応募条件にし公募すれば、多くの応募が期待できるのではないか。また、シンボルマークとして採用された方のインセンティブとして「仁淀川で遊ぶ権利を得られる」などの遊び心を取り入れるのも面白い。まずは「仁淀ブルーサポーター憲章」を制定し、それに基づいた条件でシンボルマークを募集すると、イメージに合ったマークが集まる可能性が高いと考える。 →（事務局） まずは憲章を制定し、その後に憲章に沿ったシンボルマークを募集したり、その他の取組を考えていく流れを提案していく。 ○項目 1 関連：「協力金制度」の検討、導入 →（意見） ふるさと納税を活用し、仁淀ブルーサポーターに関する情報発信と資金獲得を同時に行う仕組みを導入できないだろうか。希少価値向上のための資金については賛同者が多いと考えている。 →（座長） 企業版ふるさと納税の仕組みも既に存在しており、実現の可能性はあると考える。 →（事務局） 仁淀ブループロジェクトチームに流域市町村も参加しているため、ふるさと納税の活用の可能性について意見を貰いたいと思う。 ○項目 1 関連：「仁淀ブルーサポーター制度」の検討、導入について
--	---

	→（事務局） 仁淀ブルーサポーター制度の発案者の意見を聞くと、サポーターの条件となる対象活動は、清掃などの保全活動のほか、「川にふれ合う」行為が伴う活動がよいとの話である。逆に、にこ淵での観光に代表される「川を見るだけ」の行為は対象外とすべきとの意見であった。 →（座長） 体験をメインにする意見があるが、最も大切なのは仁淀川を大切に思う気持ちである。例えば、保全への強い思いはあるが、理由があって川に入れない人がいる場合、その人が仁淀ブルーサポーターに該当しないとはならないと思う。 →（意見） 土佐市の海岸のサーファーの中には外国人観光客も多く、会話したりすることがあるが、彼らの環境保全意識は高いと感じる。また、彼らが母国に帰り情報発信すれば、環境に配慮した観光地としての認知度もあがるので、外国人向けにも仁淀ブルーサポーター制度を発信してもいいのではないかなと思う。 →（事務局） 仁淀ブルーサポーター手帖の形式は未確定ではあるが、予算のことや情報を盛り込みすぎると検討に時間がかかることを考えると、まずはスモールスタートで実施したいと考える。手帖にQRコードを掲載することで関係機関の情報へ誘導する形はいいかな。また、インバウンド向けの情報発信については観光分野も興味があるのではと思う。サポーター制度の設計後に、情報発信サイト「ビジット高知ジャパン」で仁淀川流域のストーリーとして紹介してもらおうと面白い。 →（座長） 紙媒体は情報更新が難しいため、QRコード掲載は賛成である。 このような保全活動にはコミュニケーションが重要であると感じているため、手帖が会話のきっかけになることを期待したい。 →（意見） 手帖のスタンプを全て集めた人へのインセンティブとしてステッカーや缶バッジを配布してはどうか。仁淀ブルーサポーターのステッカーを貼った車がたくさん見られるようになると、とても良いと思う。 →（座長） 車に貼ることを考えるとステッカーではなくマグネットタイプが良いと思う。 また、仁淀ブルーサポーターのインセンティブ保持者が仁淀川流域の店舗等での買い物時に値引きを受けられる仕組みを地域で協力して作れば、制度の普及に繋がると思う。 数値化しやすい仕組みを目指して制度設計ができたらと思う。 ○項目1 関連：「（仮称）仁淀川マナーアップブース」についての検討、設置について →（意見） 様々な場所に設置されると良いと思う。
--	--

	→（座長） 場所によってルールが異なる場合があるため、その違いも反映する必要がある。道の駅などにあると良いと思う。 →（事務局） 市町村でも様々な情報を保有していると思われるため、情報収集をしたいと思う。また、市町村の施設もマナーアップブースの候補になり得るため、仁淀ブループロジェクトチームでも市町村の方に相談したいと思う。 ○項目 3 関連：仁淀川流域の設置看板の検討 →（座長） 看板デザインの統一は大事だと思う。なお、統一デザインについては、環境省など既存のものを活用することが有効と考えている。過去に梶ヶ森で看板を統一した際は環境省のデザインを参考にした。デザインやテイストが統一されていないと、いずれも注目されず重要な情報が見落とされる恐れがあり、それを避けることが最優先。仁淀川の取組ではまずは看板で伝えたいメッセージの検討が重要で、地域に適した形で進めていきたい。
--	---

閉会